

# 人のぬくもりやつながりを感じながら...

## 音訊 草笛の会

多くの人に「人の声を通して文学作品に触れてもらいたい」という思いで手作りCDやテープを作成している音訊サークルで、現在12人が活動しています。今回は、西川純代さんと松岡雅子さんにお話を伺いました。



### この会を立ち上げたきっかけと、現在の活動について

「最近、新聞の文字が読みづらくなった」という地域の方の一言がきっかけです。高齢者や、目の不自由な方にも自分の住む町の情報を届けることはできないかと考え、平成7年に「広報かわげ」の音訊を始めました。

現在は創設当初の思いに加えて、例えば家事をしながら、あるいは寝る前のちょっとした時間に「人の声」を通して本を楽しんでもらえるよう、文学作品の音訊をし、河芸図書館と河芸ほほえみセンターで貸し出しています。「少しでも地域の役に立ちたい」という思いで25年間活動を続けてきました。



河芸図書館内の音訊CDブース

### コロナ禍で改めて気付いたこと

感染予防のため、人が集まる活動の多くが中止になったり縮小されたりしましたが、一人で行う音訊やCD作成については続けてきました。

それは、河芸図書館や河芸ほほえみセンターの貸し出し記録を通して、私たちが録音したCDを「たとえ一人でも二人でも、待っていてくれる人がいる」と感じているからです。

そして、これまでやってきたことは、感染が拡大する中で見えにくくなっている「人と人とのつながり」を感じることができる活動でもあると、改めて気付きました。



音訊CDを準備する会員(河芸ほほえみセンター)

### 活動を通して感じていることは？

「新しい本や面白い本と出会ってほしい」「さまざまな文学作品に触れるきっかけになってほしい」という願いを込めて、聴いていただく方々を思い浮かべながら音訊する本を選んでいきます。技術的にはプロや有名人が音読したものの方が優れているかもしれませんが、私たちが地元のイントネーションで

音訊したものは、利用者の方により親しみを感じていただけるのではないかと考えています。

これからも「人のつながり」を感じながら、音訊活動を続けていきたいと思っています。私たちが楽しみながら活動している様子は、聴いてくれている方にもきっと伝わると信じています。